【第九回】

諸橋轍次記念

漢字文化理解力検定

二〇二六年十月四日

※解答は楷書で記すこと。なお、字体や仮名遣いが一般的なものと大きく異なる場合には、減点の対象とすることがある。

【問題Ⅰ】（45点）

次に掲げるのは、「漢字漢語談義」という文章である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。（問題作成にあたって、一部、文章を改めたところがある。）

一　うそから出たまこと

問う人　日本の言葉で年寄りの婦人のことを刀自（とじ）といいます。或いは婦人の敬称として用いているようですが、あれは婦人の婦という字が昔は負と書いた、それを二分して誤ったものだと聞きましたが、どうなんでしょうか。

諸橋　なるほど『禁秘抄』などにも刀自という語は出ておりますね。語源のことはよくは知りませんが、やはり戸主（トジ）のA音訳でないでしょうか。婦人は家庭すなわち戸の内の主人公として家庭を①ツカサドるものだから、戸主が自然に婦人の敬称になったものと思います。主にはツカサドる意があります。但し『書言字考』などには「娘の字の本字は負であり、＊1顔師古は老母なり、刀自は負字の変なりといった」と説明していますから、あなたのお話もかなり昔からの説だといえましょう。それにしても婦の古字は娘であり負でありまして、これを二分しても刀貝であって刀自にはなりません。②シカるに刀自を婦人の敬称或いは老母の意に用いたとせば、それは「うそから出たまこと」ですね。

問う人　そんな例は他にもあるものかしら。

諸橋　たびたびあってはたまりませんが、全然ない訳でもありません。洒落た言葉ですが、挙燭と書いて賢者を採用する意味に用いることがあります。B『韓非子』に出ている話でありますが、楚（そ）の都、郢（えい）という土地に住んでいる人が、C燕（えん）の国の総理大臣に手紙を寄せようと思いまして、書記に命じました。ところがその時ともしていた蠟燭の火があまり明るくありませんので、「燭を挙げよ」と侍者に命じました。その言葉を書記が聞き誤りまして、そのまま手紙の中に「挙燭」の二字を書き入れたのです。これを受け取った燕国の総理大臣は、さあ、解らない。色々工夫した結果、「燭を挙げよ」とは「明を尊べよ」との意であ

り、結局賢者を尊んでこれを採用せよとの謎であろうというので、その旨を燕の王様に進言したところ、王様も喜んでその言をとり用いましたので、燕の国は大いに治まったというのであります。これから賢者を採用する場合に挙燭の字を用いることがあるのであります。しかしたとえこうして燕国が治まったとしても、それは嘘から出たまことであって、挙燭の二字を書いた原意ではありません。シカるに世間には往々これに類することが行われています。古人の成語を別義に解して自分の立場に都合よからしめようとする学者、相手の言葉尻をとらえて無理やりに吾が党の弁明に役立たせようとする③セイカク、この種のD牽強附会はすべてE郢書燕説であります。

問う人　学者もセイカクも郢書燕説ですか。大分手厳しいですね。

二　牽強は戒めよ

問う人　国語の方面にも色々の研究家がありまして、万葉の言葉は大半外国から来たものだとか、この言葉はもとこれこれの転化だとか、普通の人のF意表に出るような新説を提起して世を驚かすものもありますが、漢字漢語についてもこの例は多いことでしょうな。

諸橋　お話の通りであります。以前私の知った人に、すべての漢字を性に関連して説こうとした人もありました。また、何でも彼でも六書の④所謂会意の説によって説こうとした人もありました。それらの人の説の中には全く独創もあり、しかも未発の名説を発見することもありますから、その人の研究はこれを奨励こそすれ、拒否し或いは邪魔する必要はG毫もないと思います。但しこの種の研究家は熱心のあまり往々にして自説を狂信し、遂に己を以て人を律せんとするの⑤ヘイガイもありますから、その点第三者は適当に⑥シュシャする要はあると思います。

[*2]王安石は言うまでもなく宋の一大政治家でありますが、その新法を制定する場合、学者の口を⑦箝する一策として安石の新法がすべて『[*3]周官』に基づくことを提唱し、これがため『周官新義』の一書を著しました。しかし新法の説明として『周官』の書をそのように拗合して解釈するためには、文字一つ一つの解釈をそれに都合よく作らなければなりません。そこで安石は更に『字説』という字典を作ってその解釈を助けました。その書は二十巻であったとも二十四巻であったともいわれています

が今は伝わりません。但し＊4楊亀山の文集の中に字説二三十則を載せておりますので、それによって内容を推知することができます。大体文字の成立を「H会意」によって解釈しているようであります。

ところが、縦横の鬼才、特に⑧諧謔に富んだI＊5蘇東坡はある時、波という字の成立を安石に尋ねました。安石は波は水の皮だと答える、これは一応の明答であります。シカるに東坡がすかさず、「では滑らかなのは、水の骨ですか」と言ったので、安石は唖然とする。つけて加えて東坡の娘が傍から「東坡の坡は土の皮ですから」と笑ったので、流石の安石もJ顔色を失ったというのであります。安石はまたなぜK鳩の字が九と鳥とから成り立っているかという説明に困っておりました。すると東坡は『詩経』の詩に「鳲鳩桑に在り、其の子七つ」と言っているではないか。七羽の小鳩とこれを生んだ両親の鳩とを加えれば九鳥になりますと言ったので、安石は一時大喜びはしたが、後になってそれがまた東坡の⑨チョウショウだと悟って大いに恥じたというのであります。王安石などはあれだけ理性に富んだ実際の経綸家でありますが、それでも物事に一方的に熱中すると、他を顧みる余裕がなく、こんな馬鹿らしい⑩誤謬に陥るのであります。我々も文字の成立にあまり多く鑿った説明を施したり、或いは語句の旁証に類似の点があるからといって、事実でもない出典を列挙するなどは慎むべきことだと思います。

（『諸橋轍次著作集第九巻』大修館書店、一九七七年による）

＊1 **顔師古**　唐初の学者。
＊2 **王安石**　北宋の政治家・文学者。
＊3 **『周官』**　書名。儒教の経典の一つ。『周礼』ともいう。
＊4 **楊亀山**　北宋の学者の楊時。
＊5 **蘇東坡**　北宋の政治家・文豪の蘇軾。

問1　傍線部①～⑩について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで書きなさい。（各2点）

問2 波線部A「音訳」は、一般に漢字の音（まれに訓）を借用して、外国語の音を表すことをいう。音訳にあたらない地名を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

ア 倫敦（ロンドン）　イ 布哇（ハワイ）
ウ 巴里（パリ）　エ 聖林（ハリウッド）

問3 波線部B『韓非子』と最も縁の深い語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

ア 推敲　イ 蛇足　ウ 守株　エ 五十歩百歩

問4 波線部C「燕」は、『大漢和辞典』ではどの部首に分類されているか。部首名をひらがなで書きなさい。（2点）

問5 波線部D「牽強附会」の「牽」は何画か。算用数字で答えなさい。（2点）

問6 波線部E「郢書燕説」は、どのようなことのたとえとして用いられるか。説明として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

ア 道理に合わないことを無理にこじつけるたとえ。
イ 国家間で意思の伝達がきわめて難しいことのたとえ。
ウ 姦臣による国家転覆の陰謀の恐ろしさのたとえ。
エ 用語の選択を誤ると悲惨な結果を招くことのたとえ。

問7 傍線部F「意表」・G「毫も」と同意の語を、それぞれ次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。（各2点）

F「意表」

ア　意中　　イ　意向　　ウ　意想　　エ　意外

G「毫も」

ア　どうにも　　イ　どうしても　　ウ　少しも　　エ　少しだけ

問8　波線部H「会意」とあるが、会意文字とされている文字群を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

ア　日・木・水・車　　イ　上・下・本・末

ウ　明・伐・榊・躾　　エ　河・到・筒・褒

問9　波線部I「蘇東坡」の著した文章を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

ア　「赤壁の賦」　　イ　「朋党論」　　ウ　「雑説」　　エ　「蛇を捕ふる者の説」

問10　波線部J「顔色を失った」とあるが、「顔色を失う」の意味を八字以内で説明しなさい。（3点）

問11　波線部K「鳩」の意味を『大漢和辞典』で調べると、「[一]❷あつめる。あつまる。」とある。この意味で「鳩」を使っている熟語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

ア　鳩首　　イ　鳩杖　　ウ　鳩巣　　エ　鳩尾

問12　王安石は漢字の旁（つくり）の部分に意味を求めて、「波」を「水の皮」と解釈した。このような考え方を何と呼ぶか、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

ア　五行説　　イ　右文説　　ウ　音義説　　エ　性霊説

【問題Ⅱ】（20点）

漢字や漢語、漢字文化に関するあとの問いに答えなさい。

問1　次の①～③には、使い方が正しくない漢字がそれぞれ一つずつ含まれている。例にならって正しい漢字に改めなさい。（各2点）

〔例〕隣の席の人と意気統合して会話が弾む。　〔解答〕統　→　投

①傲慢な態度を取ったことを、後侮する。

②人事を察新して出直すべきだ、と一貫して主張する。

③海に望む町にある学校で、国語の教師を務める。

問2　次の①～③に当てはまるものをそれぞれの選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。（各2点）

①「使用（＝使うことや用いること）」と同じように、似た意味を表す漢字を組み合わせたもの

ア　防災　　イ　代案　　ウ　関与　　エ　非凡

②「国営（＝国が営む）」と同じように、一文字目が主語、二文字目が述語という組み合わせになっているもの

ア　指定　　イ　予定　　ウ　内定　　エ　法定

③「議論」を「論議」としてもほぼ同じ意味を表すように、漢字の順序を入れ替えても意味があまり変わらないもの

ア　断裁　　イ　牛乳　　ウ　虚空　　エ　辞世

問3　次に掲げる四つの四字熟語の空欄に入る漢字を組み合わせると、ある四字熟語ができる。その四字熟語と似た意味をもつ四字熟語として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

行雲流□　　深□幽谷　　旗幟鮮□　　千□万紅

ア　鏡花水月　　イ　風光明媚　　ウ　晴耕雨読　　エ　無為自然

問4　次のア～エの中から、中国の故事に由来することばではないものを一つ選び、記号で答えなさい。（1点）

ア　破天荒　　イ　登竜門　　ウ　白眼視　　エ　天王山

問5　次の語群の中から、いわゆる「四書五経」には含まれないものを一つ選び、漢字に直して答えなさい。（2点）

【語群】　ろんご　　らいき　　こうしけご　　しゅんじゅう

問6　次に掲げるのは、『万葉集』に収録されているある歌を、漢字仮名交じりと万葉仮名とで記したものである（『新日本古典文学全集　万葉集　四』岩波書店、二〇〇三年による）。

我がやどの　い笹群竹（ささむらたけ）　吹く風の　音のかそけき　（　）の夕（ゆうへ）かも

和我屋度能　伊佐左村竹　布久風能　於等能可蘇気伎　許能由布敝可母

（1）漢字仮名交じりの空欄に入るひらがな一文字を書きなさい。（1点）

（2）傍線を付した「村」「竹」「風」では、読み方として漢字の訓読みが用いられている。この歌には、訓読みが用いられていると思われる万葉仮名が、あと一つある。その漢字を書きなさい。（2点）

【問題Ⅲ】（15点）

国字（日本で作られた漢字）・国訓（日本で作られた字義）について、あとの問いに答えなさい。

問1　国字（日本製の漢字）である「鱈」は、ある魚を「ゆき」と称する女房詞（にょうぼうことば）を用いる社会で作られたと考えられる。

（1）この字が作られた時代は、次のどれか。一つ選び、記号で答えなさい。（3点）

ア　飛鳥時代　　イ　平安時代　　ウ　室町時代　　エ　大正時代

（2）これに読みと意味の上で関連する国字として「鰹」がある。この読み方をひらがなで書きなさい。（3点）

問2　次の四字の中から、中国で生まれた漢字（中国に由来する字義を含む）を二つ選び、記号で答えなさい。（各3点）

ア　閂（かんぬき）　イ　閊（つかえ（る））　ウ　閑（ゆり・ゆる）　エ　関（〜ぜき　力士の名に付ける敬称）

問3　次の字は、近世文書において国訓として常用される崩し字である。楷書に直して書きなさい。（3点）



【問題Ⅳ】（15点）

次の図は、宋代に陳彭年らによって編纂された『広韻』の一部分である。これを見て、あとの問いに答えなさい。



問1　『広韻』は音によって字を分類配列した辞書である。このような形式の辞書のことを、何と呼ぶか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（3点）

ア　字書　　イ　韻書　　ウ　音義書　　エ　字様書　　オ　類書

問2　字釈中の「和也」は、「燮（しょう）」字の何を解説したものか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（3点）

ア　字形　　イ　意味　　ウ　発音　　エ　用法　　オ　部首

問3　字釈に引用された『説文解字』では、「燮」は「从言又炎」、すなわち「言」「又」「炎」を組み合わせてできた字と解説されている。この成り立ちは、次のうちいずれにあたるか。適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。（3点）

ア　象形　　イ　指事　　ウ　会意　　エ　形声　　オ　転注　　カ　仮借

問4　「燮」の読み方を表すのは「蘇協切」の部分であるが、このような方式の音注を何と呼ぶか。（3点）

問5　字釈にある「十六」は、何を表す数字か。簡潔に答えなさい。（3点）

【問題Ⅴ】（5点）

諸橋轍次の生涯や業績について、あとの問いに答えなさい。

問1　諸橋轍次に、漢和辞典の制作を持ちかけた人物は当時の大修館書店の店主であるが、それは誰か。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（1点）

ア　岩波茂雄　　イ　野間清治　　ウ　鈴木一平　　エ　金田一京助　　オ　正宗敦夫

問2　『大漢和辞典』の見出し字（親字）はおよそ何万字か。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（1点）

ア　約三万字　　イ　約五万字　　ウ　約七万字　　エ　約九万字　　オ　約十二万字

問3　『大漢和辞典』全十三巻が完成したのは何年か。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（1点）

ア　一九二八年　　イ　一九四三年　　ウ　一九五五年　　エ　一九六〇年　　オ　一九七二年

問4　諸橋轍次は、三十九歳で静嘉堂文庫の文庫長に就任するが、これを委嘱したのは誰か。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（1点）

ア　岩崎小弥太　　イ　渋沢栄一　　ウ　大倉喜八郎　　エ　益田孝　　オ　住友友純

問5　諸橋轍次の座右の銘は、『論語』雍也篇に見える語句で、訓読すると「ゆくにこみちによらず」となる。この四文字を漢字で書きなさい。（1点）